

一般質問通告書

通告順番 1 番

通告者 時松 智弘 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 防災備蓄食の計画を見直し 小中学校の教材や地域学校 協働で有効活用できないか	災害発生時の避難所運営時や要支援者の為防災備蓄食として毎年12,000食が当初予算で購入され、当初の予定通り60,000食が備蓄された。幸いにして本町は激甚な災害に遭うことなく、過年度購入分が消費期限となっている。効果的なローリングストックとフードロス防止を行うためには消費期限が迫った備蓄食の消費の計画が必要ではないか。 (1) 避難所の多くは小中学校の体育館である。児童生徒の防災食作成体験を行えば災害時の貴重な共助の力となる。総合的な学習の時間や社会科の学習教材として活用する考えはないか。 (2) 防災訓練時のみならず地域学校協働のイベントの際も、地域の防災士を活用し防災食作成体験や試食会を行う考えはないか。	町 長 教 育 長
2 防災教育に必要な書籍、ボ ードゲーム、絵本などを図 書館や学校図書として備え ることは出来ないか	先日、熊本市内で行われた防災のイベントの中で様々な書籍、ボードゲーム、カードゲーム、絵本などを教示頂いた。大変有用なものもあることから防災に関し様々な学習シチュエーションを支援する為図書の充実を出来ないかと思料する。生涯学習、学校教育両方に福音がある。 (1) 町図書館の防災関連蔵書の充実をはかり、図書館内スペースにおいて防災に関する啓発イベントを企画する考えはないか。 (2) 学校図書においても子どもたちの防災に関する知識を涵養する為防災関連図書の充実を図り防災教育に資する考えはないか。	教 育 長
3 熱中症対策として公共施設 をクーリングシェルターと して開放、利活用する考え はないか	夏季熱中症発生件数は増加の一途を辿っている。コロナ禍の中では顕著でなかったが日本では昨年度9万人を超える熱中症の救急搬送があった。熊本県は1,601人であったが過去には人口比全国4位の搬送者数となった年もある。環境省は地域の気候変動に基づく熱中症対策関連事業促進の為「クーリングシェルター」の活用を提唱している。本町の熱中症予防の啓発と熱中症対策での公共施設活用の考え方を伺う。	町 長

一般質問通告書

通告順番 1 番

通告者 時松 智弘 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
4 災害廃棄物仮置場の周知を ごみカレンダーなどに掲載 広報できないか	災害廃棄物の処理は市町村の義務行為である。しかし災害の様相から廃棄物の発生、収集運搬、処理には多くの困難が発生する。処理費用の縮減や役場の人的支援の限界を考慮すれば適切な仮置場の運営体制構築と住民の分別などへの啓発が必要と思料する。町の具体策を伺う。	町 長

一般質問通告書

通告順番 2 番

通告者 豊瀬 和久 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 南杉水地域の通学路等の安全確保と渋滞対策と、セミコンテクノパークへのアクセス性の向上について	(1) ホンダ南通からセミコンテクノパークへの道路延伸について、菊陽町、合志市との協議状況はどのようになっているのか。 (2) T S M C 近隣の南杉水地域からの安全対策の要望についてどのように対応するのか。	町 長
2 町道敷地内民有地（未登記道路）の整理について	(1) 寄付以外の方法で整理する手法の調査状況はどのようになっているのか。 (2) 地域と連携した取り組みについてはどのようになっているのか。 (3) 未舗装道路の整備について将来的な見通しをどのように考えているのか。 (4) 町内の町道敷地内民有地（未登記道路）の状況はどのようになっているのか。	町 長
3 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」の取り組み状況について	(1) 本町における不登校対策「COCOLOプラン」の具体的な取り組みはどのようになっているのか。 (2) 学校・教育委員会と家族やフリースクール関係者との連携を強化し、フリースクールで学んだ生徒が将来に対して夢が持てるような取り組みを進めるべきではないか。 (3) 不登校児の保護者の精神的、経済的な負担軽減を図るためにも、フリースクールに通う町立小中学生の保護者を対象に、授業料への助成制度を創設するべきではないか。	町 長 教 育 長
4 带状疱疹ワクチン接種への助成について	町民の健康を守るという観点から、病になってから治療するのではなく、病を未然に防ぐために带状疱疹ワクチン接種への助成をするべきではないか。	町 長

一般質問通告書

通告順番 3 番

通告者 三宮 美香 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 小中学校の熱中症対策	令和3年5月に環境省・文部科学省から「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」が作成されたが、気候変動適応法等の一部が改正されたことに伴い令和6年4月に追補版が出ている。追補版には「普段心がけている程度では不十分である」という文言や水分補給サポート事例には民間と連携した水分補給スタンド等が挙げられている。 町教育委員会としてこの追補版をどう捉え、熱中症対策にどう取り入れていくのか。	教 育 長
2 大津町の歴史文化の担い手育成の取り組みについて	近隣地域への企業進出に伴い大津町の人口も増加している。移住してくる人たちは大津町の文化や歴史に興味を抱いてもそれを学ぶ機会が少ないのが現状である。一方で、大津町の住民にとっても歴史文化の伝承がうまくいっているとは言えない。町の歴史に詳しい人も高齢化が目立ち、その知識を若い人たちにきちんと伝えていく体制作りが求められていると考える。町としての取り組みを聞きたい。	教 育 長
3 いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを選択できる大津町にするには	町長の101の具体策の政策4に人生100年時代を見据えた福祉とある。項目40に「いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを選択できるよう・・・」という文言がある。私自身も「住んでいるひとがしあわせ 住みたいと思う町おおづ」という気持ちで町のことを考えてきた。令和6年3月に「第9期大津町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」「大津町障がい者基本計画」「第7期大津町障がい福祉計画」「第3期大津町障がい児福祉計画」と福祉計画が更新された。 町長が議員だったころにMC I（軽度認知障害）を中核とした認知症対策について質問をされ、提案された施策による効果効能と数千万から数億円の医療介護費の抑制効果があると提案されていた。5月の熊日新聞で2060年にはMC Iと認知症とを合わせた数は1,227万人で高齢者の2.8人に1人当たると記載があった。町長としての3年半での取り組みと効果を聞きたい。	町 長

一般質問通告書

通告順番 3 番

通告者 三宮 美香 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
	また、障がい者施設も利用者の高齢化に伴い本人や親の認知症や介護など多くの課題を抱えていると考える。障がいだけではなく横のつながりが求められていると思うが、町としてどう取り組んでいくのか。	

一般質問通告書

通告順番 4 番

通告者 山本 富二夫 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 飛行機の騒音問題	コロナ禍が終わり、阿蘇くまもと空港の発着便も台湾便の増便等で、現在約50便が毎日就航していると聞く。 そうした中、岩坂区をはじめ、中島、陣内、森、新、大津東、錦野、外牧各区に出向き住民の声を聞いてみると「飛行機の騒音がひどい、どうにかならないか」との意見が想像以上にあった。 (1) 町独自の騒音調査を行い、国や県に騒音対策を依頼すべきではないか。 (2) 調査の結果を踏まえ、個人住宅への対策を国や県に要望することはできないか。 (3) 大津南小学校上空を飛行機が飛んでいるが、落下物は大丈夫か。	町 長
2 町民の移動手段を守るために、ライドシェアの取り組みを	バスや乗合タクシーでの移動に不便を感じている地域の方々に対し、町としてライドシェアの取り組みを検討できないか。 (1) 県内他町でも検討すると聞いているが、大津町でも検討できないか。 (2) 大津町における乗合タクシーの課題について (3) 夜にタクシー等が不足しており不便を感じているが対策はないか。	町 長
3 町の農業の今後の展望は	護川地区の工業団地及び、TSMC関係等による宅地開発により、優良農地がどんどん転用されている。中には、業者に買収され虫食い状態で開発されているところもあるように感じている。さらに南部地区のアクセス鉄道計画が進めば圃場整備した優良農地が何ヘクタールも転用され、農家は農業を続けていけない状態に陥る。町長は農工商並進と言われているが、町の農業・農家をどう守っていこうと考えているのか。町長の農業政策についての考えを問う。 (1) 護川地区の畜産業やからいも農家は今の政策では廃業するのではないか。 (2) 優良農地が減少している状況を今後どう打開していくのか。代替地は期待できるのか。 (3) 圃場整備地内の耕地面積が減少すれば米がとれなくなるが、町民の食糧確保について町はどう考えているのか。	町 長

一般質問通告書

通告順番 5 番

通告者 荒木 俊彦 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 まちづくり基本構想について 肥後大津駅周辺と大津高校・大津中・翔陽高校への通学路が非常にお粗末ではないか。通学路について児童生徒に意見や提案をしてもらったかどうか。	「肥後大津駅周辺まちづくり基本構想」が提案されているが、大津駅を中心として通学する高校が2校あり、大津高校の通学路は大津中と重なり、翔陽高校の通学路には室小の通学路が重なっている。どちらも決して快適・安全な通学路とはいえない。まちづくり会議のメンバーは優秀な人たちであると思うが、ほとんど車で移動する大人ばかりであり、実際に駅周辺を毎日歩いている児童生徒の意見や提案、疑問などが反映されていないように思われる。こうした人たちの声を丁寧に聞くべきではないでしょうか。	町 長 教 育 長
2 高規格道ミルクロード交差点から大津 I C までの道路を一般道路として北部の平川・矢護川・真木方面への連絡路に延長、接続することが可能ではないか。	大津 I C が新たにできたら、現在のミルクロード大津 I C までの間の道路は、長い進入路だけになってしまう。この間の道路を一般道にして平川・北部方面への連絡路として利用できるのではないかと。今のうちから提案、検討を求めたらどうか。 新しい大津 I C へのアクセス道路が、現状のままでは三吉原北出口線などの交通量が更に増加しかねない。	町 長
3 日曜開庁の要望あり	大津町は水曜日夜間受付をしているが、ひとり親家庭や日曜日しか時間を取りづらい方がおられる。合志市では、月に2回、日曜開庁で対応している。役場に来ない方式も結構だが、対面でないとできない手続き、マイナンバーを持たない人、作りたくない人もいます。 日曜対応は、丁寧に親切的な役場であってほしい。	町 長

一般質問通告書

通告順番 6 番

通告者 田代 元気 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 工業団地整備について	(1) 杉水で計画中の工業団地整備について、進捗状況は。 (2) 周辺地域の交通安全対策は先行して行わなければならないと考えるが、具体的な取り組みは行っているのか。	町 長
2 任意接種ワクチンの助成について	予防接種には定期接種と任意接種があるが、任意接種ワクチンには高額なものがある。 町民の重症化予防効果や負担軽減の観点から、任意接種ワクチンについて助成する考えはないか。	町 長

一般質問通告書

通告順番 7 番

通告者 面川 秀貢 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 大津町創業支援補助金について	令和4年からの創業及び新分野に対する支援であるが、今一度内容等見直し、利用者が使い勝手のいいよう改善出来ないか。	町 長
2 店舗の新築、改装などの融資金利補給制度について	現在、左記の事業に対する金利補給制度であるが、もう少し間口を広げ、伸び行く利用者の支援が出来ないか。	町 長

一般質問通告書

通告順番 8 番

通告者 山部 良二 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 グリーンスローモビリティ導入を	グリーンスローモビリティとは電動で時速20キロ未満で公道を走る4人乗り以上のパブリックモビリティ、通称「グリスロ」のことで、4つの活用法があり、地域住民の移動手段・観光客向けのモビリティ・ちょこっと輸送・地域ブランディングとしての活用方法がある。「乗合タクシー・大津まちなかバス」には全域をカバーしていないという致命的な欠点があり、美咲野地区などの高台にある地域は、今後高齢化が進み高齢者の移動手段がないことが深刻な問題であり、今後改善していく必要があり、また世界かんがい施設遺産「上井手用水」観光など観光振興にも力を入れることができると思うが、導入すべきではないか。	町 長
2 公園の移動等円滑化について	今「合理的配慮の提供」の推進のため、移動等円滑化に必要な公園施設の充実が求められており、バリアフリー化については、障がいのある人を含むすべての人の利用に配慮した公園施設とするために、園路の幅の確保や段差・勾配の改善、車椅子使用者をはじめ、多くの人にとって利用可能な公園施設のバリアフリー化を国は進めており、大津町としても、各公園の移動等円滑化を早急に進めるべきではないか。	町 長

一般質問通告書

通告順番 9 番

通告者 大村 裕一郎 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 地下水涵養を維持していくために	大津町周辺では半導体企業の進出により多方面に様々な影響が生じている。その中で、地下水における課題が稼働前から囁かれ、県や市町村においても動きが見られる。大津町においても、公益社団法人くまもと地下水財団と水循環型営農推進協議会が主になり、水田湛水事業が行われ、水循環型営農推進協議会においては事業における金額も上がる方向性が示されている。 しかし、そもそもの米の価値が上がらなければ、水田を維持していこうとされる方も減り、地下水涵養に関しても非常に難しくなってしまうのではないかと考える。そういった中で、農協と白川水系土地改良区、大津町、菊陽町が6月よりこのような諸課題への対応を協議する場を作る予定であるとのことだが、下記に関して町長の考えを問う。 (1) 大津町として協議する場において水田湛水以外で水田を維持するための考えを示すのか。(保有米のみの生産も含む) (2) 地下水保全の観点で考えるのであれば、水田湛水事業において、米を生産している期間も湛水事業の期間に含められるよう働きかけるべきではないかと考えるが町長の考えを問う。 (3) 米（水田）に関しては動きが見られるが、今後、他の農畜産物へ波及する考えはないのか。	町 長
2 小学校の児童数減少について	小学校は地域にとって非常に重要なものである。 子どもたちの学びの場であるのは当然ながら、地域内での交流の場となっており、地域が活性化するためには絶対に必要なものである。しかし、東小では小規模特認校制度が実施されているが、北小も含め年々児童数は減少している。 このまま減少が続けば前述したとおり地域内でのコミュニティが消失する可能性もあり、非常に危惧するところである。そういった中、菊陽町では菊陽南小学校校区において定住促進補助金制度を作り、平成26年度以降令和3年度を除き児童数は増え続けている。 大津町でもこういった制度を創設し、地域の活性化に寄与すべきではないかと考えるが町長、教育長の考えを問う。	町 長 教 育 長

一般質問通告書

通告順番 10 番
 通告者 永田 和彦 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 教育者に欠かせない生成AIの知識について	NVIDIAの創業者／CEOであるジェンスン フアン（Jensen Huang）曰くコンピュータに話しかけると返事をする世界。 新たな産業革命が始まっている。 変わりゆく社会の現状と今後の方向性を知らずして教育は成り立たない。 文部科学省の指示を待っていても時代遅れの感が強い。	町 長 教 育 長
2 外国人犯罪について	外国人材の受け入れ拡大や訪日旅行ブームにより、急速に多国籍化が進む一方で、地域社会では数々の摩擦も起き外国人犯罪は増加し「多文化共生」など聞くも白々しい。 栃木、長野、群馬、福島4県の山間部で4月30日から5月14日にかけて、一軒家を狙った強盗事件が相次いだ。住宅に侵入して住人を縛り刃物を突き付けて現金やキャッシュカードを奪う強盗事件が発生。 想定の範囲内として対策をしなければならない。	町 長

一般質問通告書

通告順番 11 番
 通告者 坂本 典光 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 大津大好き人間を育てる	5月22日に県関係国会議員への要望書提出のために東京に行ってまいりました。参加したのは菊池郡はじめ阿蘇、天草、上益城、下益城、玉名、球磨、芦北など県内の町村です。衆議院、参議院議員に各郡ごとに要望書を提出しました。各大臣から明確な返事があったのはTSMC関連の道路関係でした。それぞれの町から「北はええな」「菊陽と大津ばかり」というため息がきこえました。人口も大津、菊陽は増加しています。ただ喜ぶだけではなく、市町村は人口が多いところ、財政が豊かなところ、勢いがあるところが有利であるということを認識した次第です。よそに負けないような大津町をつくるべきだと思います。そのベースになるのは大津大好き人間を育てることであり、ガンバルところにお金を出す姿勢を町長が示すべきではありませんか。	町 長
3 大津町身体障害者福祉会の活性化	人は希望がないとイキイキと生きていけない。 障がいがあっても持てる能力を精一杯生かして一生懸命生きる姿は人々の感動と尊敬を生みます。 同じ障がいを持った人たちのコミュニケーションの場は大事です。 町に障害者手帳を持った人は多くいます。この福祉会の会員は8年前には100人いましたが現在は40人しかいません。今、町の手伝いがないとなくなってしまうです。	町 長